

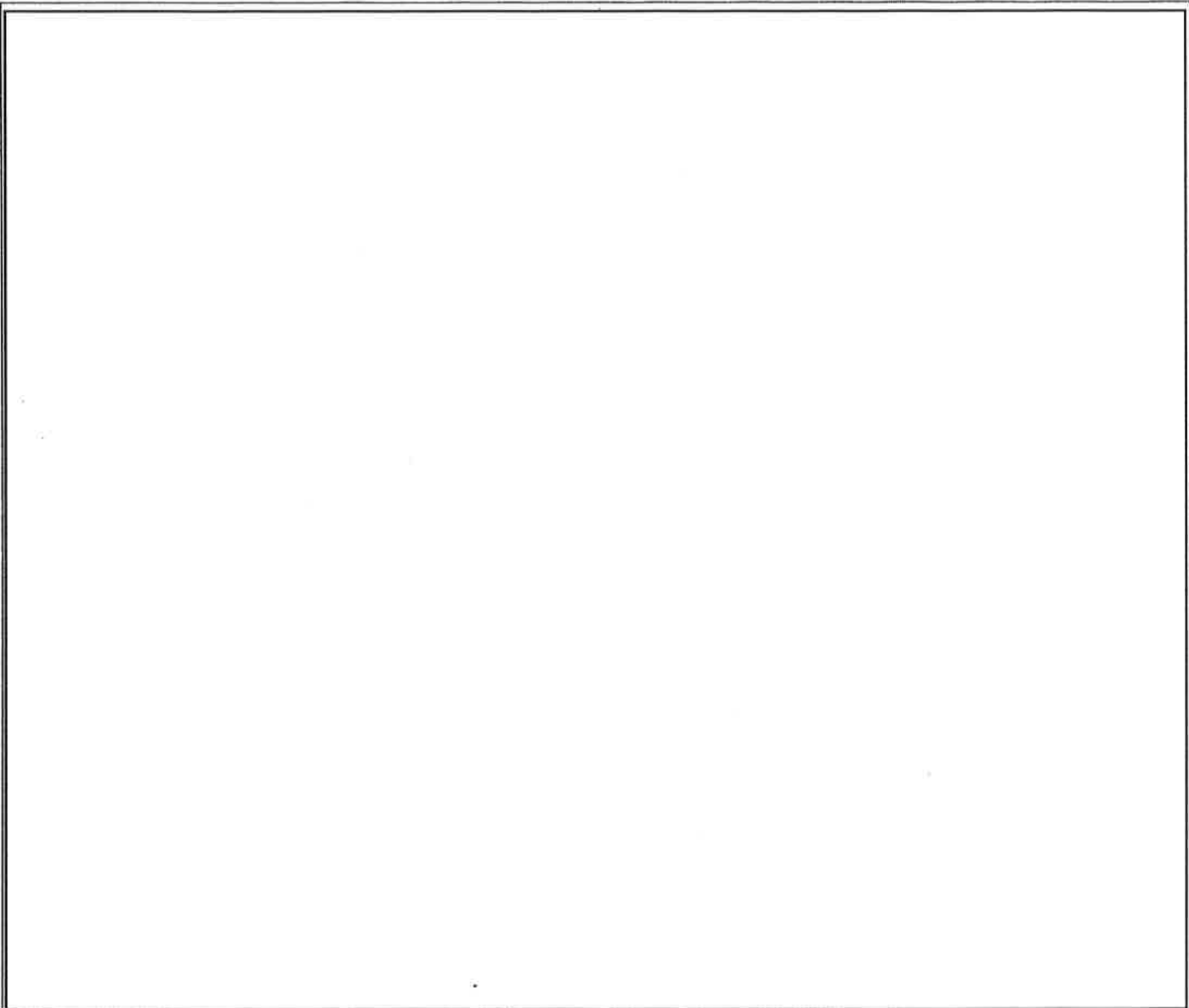


2013年7月15日 発行

2013年夏号

<第23号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/下野英世 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 works-union@y3.dion.ne.jp http://www.v-aid.org/union/



僕のゆめ

長居でカレーと焼きそばをつくりました。たのしかったです。ともだちもできました。電車おたくともだちになりました。普段の休みの日はあちこちに出回っています。出前もじょうずにできました。

長居の実習終わりました。十三の「BEhappy」という事業所に就職しました。今の仕事は、お店の掃除を女性2人男性3人でしています。仲の良い友達もできてお互いにあだなで呼び合っています。給料が10倍になりました。

自転車を自分のお金でかうことと、ラーメン屋さんをすることを目標にこれからお仕事がんばります。ズンドウ鍋を二個買いたいと思っています。ラーメン屋の店名はツヨシオラーメンです。でもお店の家賃が心配やなあ。

女性には小松菜の麺を出して男性には卵麺を出そうと思っています。

多和田剛

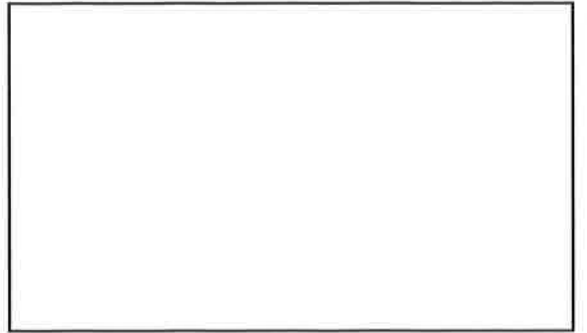
「守る」べきもの

「変える」べきもの

ワークスユニオンでは、

いくつかの会議を行って
います。毎月の定例会議は「事
業別会議」(日中支援の事業
に携わる職員と生活支援に
携わる職員に分かれての会
議)と、「職員会議」(全職
員一堂に会しての会議)と
「運営会議」(各事業所の責
任者による会議)があり

ます。また、定例会議でな
いものでは、各事業所での
会議やケース会議なども行
っています。どの会議も少
しずつではありますが、法
人設立よりの職員体制の変
化に合わせて会議の持ち方
も少しずつ変えてきました
が、三月の中旬に泊り込み
で行う「総括会議」は、形
を変えずに行い続けてしま
した。



「自分たちは、一年間何を意

図し、どのように支援し
てきたのか?」「自分の支
援や考え方はどうだったの
か?」「他の職員の考え方
や支援はどうだったの
か?」について、議論し意
見をぶつけ合いながら、「総
括会議」の資料を創ってい
きます。

大切なのは、「支援の方向
の違いをお互いに受け止め
議論する。」ことや、「自分
自身の支援の幅を広げ、自
分の意見で相手を説得でき
る力を身につける。」ことに
より、一人ひとりの職員が

「支援者として成長する」
ことに「総括(会議)」の意
義はあると考えています。
会議の当日は、時間内に、

どのように相手に分かる様
に話せるかの「練習の場」
で良いと思っています。

「総括会議」ってなんで一
泊なの? との疑問が新
職員の中にはありますが、
ワークスユニオンでは当初
から泊り込みで行ってきま
した。

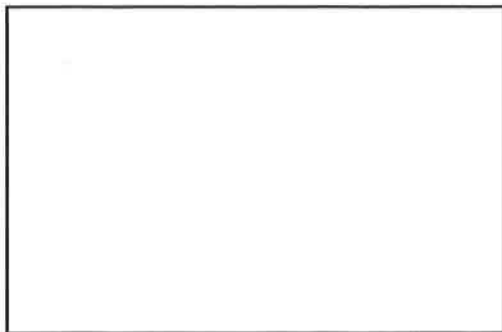
当時は、七名ほどの職員
しかおらず、宴会で話した
内容はあまり覚えていませ
んがワイワイと夜中まで話
をしていた記憶があります。
そこには、カリスマ的存
在の山川さんがおり、自然
とそこに人が集まり、何か
「一体感」みたいなものを感
じていました。

カリスマの山川さんは既
に居らず、職員数も四十名
を超え、以前とは体制や雰
囲気が変わってきました。
しかし、そうだからこそ
この時間を気にしない飲み

会やみんなで集まれる機会
の必要性を感じます。

総括での自分が解決でき
なかつた悩みや疑問、普段
話せない仲間との会話など、
この飲み会があるからこそ
出来ることや話せることが
あると思います。

一年間のそれぞれの悩み
やモヤモヤが、少しでも解
消されることを願います。



「支援」と「生活支援」で異
なるため、職員間のコミュ
ニケーションは、とりにく
い環境にあります。

だからこそ「総括会議」
は、一泊で行い「夜の部」
(ノミニケーション)の場
を設定しているのです。

最近、会議で事業所の出
来た経緯や当初の意図を聞
かれることがありました。

私自身もワークスユニオ
ンの歴史やその出来た経緯
などは、その都度話してい
るつもりだったのですが、
確かに細かな事などは、伝
えきれていなかったように
思います。

職員も代わっていく中、
伝えていかなければならな
いことがたくさんあるよう
に思います。

より良い支援を目指して、
利用者にとって、「今」何が
必要なのか? 「数年後」
には何が必要になるのか?
私たちは、議論の中から答
えを見つけ出ししていきたい
と思っています。

(松川)

新たなスタート

先の3月27日、移転した西区の「和」で開所式を行いました。生活介護事業所としてのリニューアルオープンということで当初は3月1日に予定していましたが、インフルエンザや腸炎が流行った影響で全員が揃う日程に変更しました。

その甲斐あって、言うては何ですが、利用者さん全員と保護者さんの多くにご参加頂き、大阪市知的障害者育成会から、ワークス田積時代より関わりのある泉原さんにもお越し頂くことができました、無事に開所式を迎えることができました。

開所式は、南石所長、支部長の三宅さん、泉原さん、利用者さん、和職員からの挨拶の後、くす玉割りを行い、最後には全員で記念撮影をしました。

言葉の少ないAさんほどんな挨拶をするのかな?と
思っている、自分の

名前を言うてからすかさず拍手をして挨拶を終わらせました。Bさんは「どうも!

改めましてこんにちは!」と慣れた様子で一言。思わず笑いを誘われるような挨拶に個性が光りました。

中には、「不安もありま
すけど、これからも皆でがんばっていききたいです」と緊張しつつも言葉を選んで想いを語ってくれた利用者さんもいて、職員もがんばらなければ!と胸が熱くなつた一幕でした。

新しい「和」もスタートしたばかり。これからも利用者さん、保護者さん、職員の想いを乗せて、「和」は前進を続けます。

理事会について

ワークスユニオンの理事
会は毎年5月に行われており、理事の方と職員全員が出席していますが、通常、法人の理事会に職員が出席することはまずありえない
そうです。

これは、ワークスユニオン創設者の山川宗計氏が職員にも理事の方に顔を覚えていただき、理事の方と関係や繋がりを作ってほしいという思いから始まったそうです。私自身初めて理事会に出席した時は、理事会の雰囲気になかなか緊張し汗が止まらなかつた事を覚えて
います。

しかし自分が担当している事業所の事だけでなく、理事会に出席し、ワークスユニオン全体の運営状況や来年度についての報告等を聞くことで、職員の視野は
広がっています。

理事会当日には、勉強会
として理事の方から今まで携わってこられた活動や山

川宗計氏との思い出など、
色々なお話を聞かせていた
だくことが出来ます。この
時間も職員にとつては貴重
な経験になっています。

ワークスユニオンの事業
所は点在しており、普段か
ら職員全員が一箇所に集ま
って仕事をしているわけでは
ありません。そういった
一つの思いを共有すること
が難しい環境の中で、理事
会はいい機会になつている
のではないのでしょうか。
今後職員一同、理事会
で勉強させていただきたい
と思います。

(横田)

保護者会親睦会

今年3月2日、心斎橋「梅
の花」にて、生活職員と保
護者さんの親睦会を行わせ
ていただきました。保護者
の皆さまには貴重なお時間
をいただき、ありがとうございます。
ございました。

年に数回、保護者会でお
会いできますが、あまりゆ
っくりお話す時間がな
いのが実際のところ
です。
しかし当日は美味しいお
食事をいただきながら、保
護者の皆さまとゆつたりと
した楽しいひと時を過ごす
ことができました。

また、普段はほとんど接
することのない、自分の担
当以外の保護者さんとお話
する良い機会にもなりまし
た。支援について、職員の
プライベートについて、何
気ない世間話など、バラエ
ティーに富んだ会話で盛り
上がりました。
数年に一度の機会ですが、
またこのような会を設けら
れる日を楽しみにしていま
す。
(野々村)



ワークスユニオンでは、年度末の三月に一泊二日で「総括会議」を行い一年間の振り返りを行っている。

従来は、講師を迎え、その時々テーマで講演してもらっていたが、若い職員たちを中心に、「支援のあり方」について悩んでいる者が多いようなので、今回は講師の講演を取りやめ、ゆつくり職員間で話し合えるよう「グループ討議」の時間を設定してみた。

私たちワークスユニオンは、「障害」を越えなければならぬ課題と捉えるのではなく、その人の特性と捉え、「ありのままの現状」を認めた上で、一人ひとりの利用者に「充実感」を感じられる生活の提供を目指している。

この具体性に欠ける私たちの支援目標は、職員にとって「自分は、何をしたらよいのか?」「自分は、どう行動するべきなのか?」との悩みが、常に付きまとうのだろう。

今回のグループ討議で、悩みの少し晴れた者もいるだろうし、より悩みが増えた者も居ることだろう。

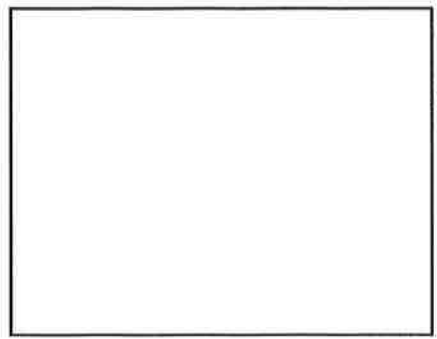
私たちの目指す支援にこれが正解といえる「答え」は無いし、良かれと考えたアプローチが、とんでもない結果を産むことも多々ある。

試行錯誤の末にこの人のこの場合は、こうアプローチしようとの結論に辿りつけなければいけません。

本人の想い、保護者の想い、支援者としての自分の想いをすり合わせたうえで、一人ひとりの利用者の、「充実感」の実現に向けて、悩もう。

悩むのも仕事の内。

職員紹介



野崎 勝明 (左) サリット

利用者さんと接するときにはいつもニコニコしてきます。また、ヘルパーが足りないときは、率先して支援に加わってくれするなど、フットワークも軽い彼。いつしか、ある利用者からは「野崎隊長」というニックネームで呼ばれるようになりました。彼にはピッタリのニックネームかもしれませんね。ユニオンに入職するまでは保険会社で勤務していたそうなので、その経験を活かせるためか、入職後すぐに、ケアホーム入居者の火災保険担当に抜擢

されるということも。利用者や職員からも頼りにされている彼。保険の相談も乗ってくれるそうです。

宮本 直美 (右) メン

一般企業やエステサロンの経営や作業所などでの勤務したのち、ユニオンに入職して二年。家でも二人のお子さんの母親でもある彼女は、母のような優しさで、時には厳しきで、利用者と関わっています。

前職を生かし、「フットケア」を支援に取り入れることで、利用者が自分を見つめ直すきっかけを作り、始めてからは美容の相談を受けることも。

休日は、スキルアップして、今後の支援に生かしたいと、スクーリングを受講しているそうです。

利用者が『より楽しい』と思える生活を送ることが出来るような支援がしたいと彼女は語ります。

(高橋)

編集後記

▼先日の事業別会議で、ユニオンのある事業について、これまでの経緯や意図、現担当者の思いを話し合う機会がありました。職員の入替わりがある中、忘れていたり知らない出来事もあつたりで、担当以外の職員も、その事業について共有できた時間でした。▼その時、或るベテラン職員からこうしたことは新しい職員が入った時などに意識的に確認し、肉声で伝えていくことが大事、と言われたことが心に残りました。▼ある土地に伝わる神話や歴史を、書き言葉ではなく口伝えで伝承する「語り部」という人がいます。「語り部」は、歴史を振り返り、最良の道を選ぶため、無意識に過去の経験に学ぶ必要があることを知っているそうです。▼私たちも、日々の実践の経過や議論した内容を、新しい人に語り継ぐ役目を担っています。(S)